

産業構造審議会(レジ袋有料化検討WG)・  
中央環境審議会(レジ袋有料化検討小委員会)  
合同会議(第2回) 資料

2019年10月11日

日本バイオプラスチック協会

# 日本バイオプラスチック協会 (Japan BioPlastics Association : JBPA) の概要

## 1. 設立趣旨

環境に調和した循環型社会の実現に重要な役割を果たす「生分解性プラスチック」と「バイオマスプラスチック」（総称してバイオプラスチック）の普及促進と、技術的な問題の解決を目的として設立された、民間団体。

## 2. 活動内容

- 「生分解性プラスチック」と「バイオマスプラスチック」の普及促進活動
- グリーンプラ識別表示制度・バイオマスプラ識別表示制度の運営
- 「生分解性プラスチック」と「バイオマスプラスチック」に関するISO規格への対応、JIS化への対応
- 国内・海外関連機関との交流による連携強化

## 3. 沿革

1989年 「生分解性プラスチック研究会」として設立

2000年 「グリーンプラ識別表示制度」スタート

2006年 「バイオマスプラ識別表示制度」スタート

2007年 「日本バイオプラスチック協会」へ改称

## 4. 体制（2019年度体制）

- 会長： 姥貝 卓実 三菱ケミカル（株）特別顧問
- 副会長： 梅谷 博之 帝人（株）帝人グループ執行役員  
大田 康雄 東洋紡（株）常務執行役員  
武岡 慶樹（株）カネカ 常務執行役員
- 監査役： 西澤 尚浩 大日本印刷（株）包装事業部事業長
- 組織：

```

graph TD
    A[総会] --- B[会長・副会長]
    A --- C[監査]
    B --- D[幹事会]
    B --- E[事務局]
    D --- F[技術委員会]
    D --- G[企画調査委員会]
    D --- H[識別表示委員会]
    
```

## 5. 会員会社（2019年9月現在 238社）

- 正会員 27社（株式会社を省略、50音順）  
味の素、エピコ、カネカ、クラレ、クレハ、シーピー化成、浙江海生生物材料、ダイセル、ダイセルポリマー、大日精化工業、大日本印刷、中央化学、蝶理、帝人、デュボン・スペシャルティ・プロダクツ、トタルコービオンPLA日本事務所、凸版印刷、東洋製罐グループホールディング、東洋紡、ネイチャーワークス・ジャパン、ノバモントS.p.A、BASFジャパン、三井物産、三菱ケミカル、ユニチカ、ユポ・コーポレーション、リスパック
- 賛助会員 21社（株式会社を省略、50音順）  
旭化成、アルケマ、インジェヴィティ・ジャパン、NECプラットフォームズ、大倉工業、KINGFA SCI & TEC、双日プラネット、ダイセルエポック、中京油脂、東レ、東名化学工業、豊田通商、長瀬産業、日清紡テキスタイル、日本ユピカ、PTT MCC Biochem、北海製罐、三井化学SKCポリウレタン、三井化学、三菱ガス化学、吉野工業所
- マーク会員 190社 社名省略

# バイオプラスチックの役割

一定の管理された循環システムの中でそれぞれの特性を生かすことで、プラスチックに起因する様々な問題の改善に貢献できる素材。

## バイオプラスチック

生分解性プラスチック

バイオマスプラスチック

管理された循環システム

### プラスチックの3R の問題

- プラスチック廃棄物の焼却から生物処理(堆肥化・ガス化)への転換による循環利用率の向上

### 枯渇性資源 の問題

- 枯渇性資源である石油から再生可能資源(バイオマス)への切り替えによる化石資源への依存度低減及び資源循環性の向上

### 地球温暖化 の問題

- バイオマスプラスチックのカーボンニュートラル特性による石油由来CO<sub>2</sub>排出の削減

### 海洋プラスチックごみ の問題

- 海洋プラスチックごみの海洋環境への影響低減

# JBPAの識別表示制度について

一般消費者に、生分解性プラスチックの製品「グリーンプラ」とバイオマスプラスチックの製品「バイオマスプラ」を正しく理解していただき、正しい使用法と製品の普及促進を図るために、当協会は二つの識別表示制度を制定し、運営しています。

## バイオマスプラ識別表示制度

2006年 7月発足

### 目的

定められた基準に適合する製品を「バイオマスプラ」として認証し、認証マークの使用を許可することにより、一般消費者がバイオマスプラスチックの製品を容易に識別できるようにする。



Purpose ●

### 基準

- バイオマスプラスチックは、所定の試験法により、その組成中のバイオマス由来成分の割合（バイオマスプラスチック度）が確認されたものである
- バイオマスプラスチック及びそれを含むコンパウンド、フィルム等の中間製品は、ポジティブリストに記載されている
- バイオマスプラは、バイオマスプラスチック度が25%以上のプラスチック製品である
- 製品を構成する全ての材料は、当協会の指定する使用禁止物質を含まない

Basis ●

## グリーンプラ識別表示制度

2000年 6月発足

### 目的

生分解性プラスチックの製品と一般プラスチックの製品との識別を明確にし、シンボルマークを認証することで、分別回収を可能とする。



Purpose ●

### 基準

- 製品を構成する全ての材料は、一定の安全性基準を満足しポジティブリストに記載されている
- グリーンプラは、生分解性プラスチックと天然有機材料の合計量が、製品中に50重量または体積%以上含まれている
- 製品中に1重量%以上含まれる全ての有機材料は、所定の試験法で一定水準以上の生分解性が確認されたものである
- 製品中1重量%未満の非生分解性有機材料の合計量は、5重量%未満である
- 有害な無機系元素の製品中含有量は、当協会の定める基準値以下である
- 植害試験と崩壊性試験をパスした材料のみ使用→「コンポスト可能」表示可

2019年9月末日現在の登録数:BPマーク 223件、GPマーク 192件

今年になってBPマークの取得申請が急増、バイオマスプラスチックの社会実装が本格化してきている。

# 当協会の考えについて

## ■ バイオプラスチックについて

- 循環型社会の成立に重要な役割を果たす低環境負荷の素材。広く社会に普及していくべき素材。

## ■ 協会の目的

- 本会は・・・バイオプラスチックの市場における普及及び社会的貢献の推進等を図ることを目的とする。

(協会規約第1章総則第2条目的 より抜粋)

## ■ レジ袋有料化義務化に関する基本的な考え

- バイオプラスチックの普及拡大に資する施策となることを希望します。

バイオプラスチック : バイオマスプラスチックと生分解性プラスチックの総称

## 個別意見・要望

- **バイオマスプラスチック製レジ袋の有料化義務化対象外にあたっては以下の課題について十分なご検討をお願い致します。**
  - コスト負担問題への対応
  - バイオマスプラスチック度の基準の設定
    - 当協会ではバイオマスプラスチック認定基準を設け、認証制度を運用
  - 供給問題
  
- **生分解性プラ製レジ袋の有料化義務化対象外にあたっては以下の課題について十分なご検討をお願い致します。**
  - コスト負担問題への対応
  - 生分解性プラ製と判断する基準の設定
    - 当協会では土中・コンポスト施設での生分解性プラスチック認定基準を設け、認証制度を運用
    - 海洋生分解性の基準策定は現在進行中
  - 社会インフラの整備
  - 供給問題

# 最後に

- レジ袋の有料化義務化は循環型社会成立のための第一歩であると考えます。
- バイオプラスチックは循環型社会の成立に重要な役割を果たす低環境負荷の素材であり、広く社会実装を進ませるべき素材と考えます。
- 日本バイオプラスチック協会は、バイオプラスチックの普及と社会貢献の推進に努めてまいります。

以上

ご清聴ありがとうございました。

日本バイオプラスチック協会